

令和 7年 4月 21日

## 令和6年度寄附講座活動実績報告書

寄附講座名：分子脳病態解析学講座

所 属 長： 夜久 均

### 1 寄附講座の目的

重症筋無力症などの神経難病を対象に、発症・病態進展機序を解明するための研究を行うとともに、これらの疾患における診断・治療法を探索する。

### 2 報告年度に係る取組状況

神経免疫疾患専門外来および脳神経内科入院患者の診療、重症筋無力症における新規の電気生理学的診断法の開発、病棟医長として神経疾患診療を担う次世代の医師の教育育成。

### 3 報告年度における著書、論文、学会発表、講演、研究助成等の実績

#### [学会発表]

1. 早期速効性治療として抗胎児性Fc受容体抗体製剤を用いた全身型重症筋無力症の一例. 安永隆晟, 小島雄太, 村田翔平, 吉田舞花, 北大路隆正, 田中瑛次郎, 尾原知行, 笠井 高士. 第244回日本内科学会近畿地方会. 2024年6月29日. 京都.

2. 速効性治療としてEfgartigimodを導入した全身型重症筋無力症の3症例の検討. 石井 健太, 小島 雄太, 西田有騎, 吉田舞花, 村田 翔平, 北大路 隆正, 田中瑛次郎, 笠井高士. 第36回日本神経免疫学会学術集会. 2024年10月3日. 富山.

[講演]

1. 京都府下における神経免疫疾患診療連携について考える. 京都北部 Neuroimmunology Meeting. 2024年6月27日. 福知山.
2. 重症筋無力症治療の現在とこれから. 京都内科医会学術講演会. 2024年11月28日. 京都.

[研究助成]

1. 小島雄太. 文部科学省科学研究費 研究活動スタート支援 「ブルトン型チロシンキナーゼは重症筋無力症の新規治療標的となりうるか?」. 研究代表
2. 能登祐一. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C) 「高密度表面筋電図法による運動単位分離解析を用いた重症筋無力症の新規診断法の開発」. 研究分担者

※欄内におさまらない場合は枠を広げて記入のこと。

※大学ホームページ等において公表することとなるので、秘密情報については記載しないこと。